

昭和51年度  
(1976)  
第16回大会

男子優勝 札幌東      女子優勝 札幌北陵

【 専門委員長 寸評 】

団体戦男子は予想通り札幌東対小樽潮陵の対戦となったが、潮陵ダブルスに元気なく、勢い乗る札幌東の若手に圧倒されて完敗。No.1の対戦も、坂上（札幌東）の確実なプレーに押し切られ、札幌東の初優勝が決まった。

女子は3年連続優勝の札幌静修を破って意気あがる札幌北陵と、若手で固め、練習充分な札幌藻岩との対戦。1-1で決着はNo.2に持ち込まれたが、それも6-6のタイブレークに持ち込まれ、ポイントの差で北陵に凱歌が上がった。創立4年でここまでこぎつけた藻岩の努力を賞したい。

個人戦は男子、坂上（札幌東）がボールをよく捕らえ、他を寄せつけず、ダブルスでも風間とともに勝ち、三冠王となったのは特筆すべきものであった。

女子は大橋（札幌南）が力強いボールで2連勝を達成、土井（札幌静修）の追撃をふりきった。この土井とならび九鬼（藻岩）、寺岡（札幌西）、男子の藤原（旭丘）、会田（札幌西）、山本（光星）等、今年は2年生の活躍が目立った。

【全国大会】

全国大会はあいにくの雨にたたられ、断続的なゲームの進行中に行われたが、そのために実力を出し切れずに終わったうらみがあった。

その中で初出場の札幌北陵の健闘が光る。1回戦ではNo.1晴山、No.2北山とも好調で、一方的に手塚山（奈良）を破り、雨で1日おいた2回戦は盛岡第四との対戦であった。No.1晴山が出足良くリードを続けたが、途中やや足に疲れが見えはじめボールが短くなったところをつかれ、タイブレークに持ち込まれたのが痛かった。結局一進一退のあげくに大事なポイントを落としたが、No.2が好調であっただけに惜しまれた一戦であった。

男子は雨天で断続する中に行われたが、No.1坂上のボールが走らず、東海の雄、岐阜商に完敗。

個人戦は予定より2日遅れて開始されたが、雨天待機の期間のコンディション調整がままならず、動きがにぶく、2回戦進出が精一杯の状態に終わった。

降雨延期というアクシデントに見舞われた今大会であったが、この条件はどの選手にも同じであり、技術もさることながら、精神面の育成の必要が痛感された。

技術面では脚力の養成である。打球の際の最善の位置を確実に確保する。最善の秘訣である。もっとも基本的な事であるが雨天のようなコートコンディションの不良の場合はこの差がはっきりとあらわれてくる。さいわい今年度は2年生に有望な選手が多く、女子にも脚力のある選手が出てきたようである。来年度の健闘を期待したい。

( 専門委員長 亀山 省吾 )

## 優勝のよろこび

男子 札幌東高等学校

3年間毎日テニスをしてきて、最も嬉しかったのは、言うまでもありませんが、あの全道大会で優勝カップを手にしたときです。他の大会の個人戦では「いったい、いつになったら存分に打てるのか」ととてもつらい気持ちに耐えながらがんばったのですが、それも今は懐かしい思い出になりました。

ぼくたちにとって、一番の悩みは、練習時間の短さでした。放課後の1時間半をいかに有効に生かすか。レギュラーに少しでも多く打たせるために、何人かが自発的に退部していくという寂しい行動もありました。部活動と勉強の両立ということも、大きな悩みでした。学業成績が悪いと、対外試合に出れません。このため退部していった人もいました。

そしてぼくたちは念願の優勝を果たしましたが、高体連全道大会ともなればその喜びはまた格別です。

思えば2年間、球拾いに始まり球拾いに暮れた毎日。

結局、東高校男子庭球部は、3年3人、2年4人、1年0という少数で闘って、団体、個人単・複の三冠を獲得したのです。少数だからこそ、互いを大切にし、心を一つにして、その結果の勝利と言えなくもありません。

最後に、学生スポーツは、優勝という到達点がすべてではありませんが、優勝することによって、それまでの過程が、一層意義あるものになることかも確かだと、今幸せに思っております。

( 札幌東高校 風間 敏明 )

## 優勝のよろこび

女子 札幌北陵高等学校

ヤッター！！

その瞬間、ただもう信じられませんでした。

地区大会で、3位にすべり込み、全道大会の出場権を得てから、今まで以上に、本当に一生懸命練習を重ねてきました。思えば私達3年生が1年生だった頃は、仮校舎の中庭のガタガタのコンクリートのコートで練習し、新しく学校ができてコートがなく、ランニ

ングで15分程の市営コートで練習しました。

新しい学校で伝統もなく、なんとなく厳しさに欠けていて、他の学校にくらべて条件の悪いことに少し甘んじていた私達も、特別顧問の先生の厳しい指導のもとに、みんなお互いに励ましあって、がんばってきました。

特別顧問の先生の指導は、技術面以上に、精神面を重視して、とにかく試合では最後まであきらめないこと、一球一球一生懸命ボールをおって、自分の力をよく知り、その中でがんばりぬくこと、それに自分の力に自信をもつため納得いくまで練習することでした。この指導のもとに、精神面においても技術面においても一番充実した時に全道大会に臨み、それまでの最大の目標であった全道優勝に到達し、私たちは、何か目には見えない大事なものを得た気がします。

( 札幌北陵高校 晴山 ひとみ )

全国高校総体 (第65回全国高等学校庭球選手権大会) 新潟

8月2日～9日

柿崎町営テニスコート 柿崎高校テニスコート

柿崎高校グラウンド特設テニスコート

柿崎中学校テニスコート